

「Ⅰ 総合判定の結果」に対する改善報告についての
審議結果

大学名：岡山大学薬学部

改善報告書提出日：2025 年 3 月 28 日

本評価実施年度：2021 年度

2025 年 7 月 1 日

一般社団法人 薬学教育評価機構 総合評価評議会

※検討所見欄以外は提出された改善報告書のまま記載しています。

■なお書きへの対応について

(1) 評価報告書の「総合判定の結果のなお書き」において指摘された事項に関する記載がある『項目』

1 教育研究上の目的と三つの方針

3-3 学修成果の評価

(2) 指摘事項

なお、「薬学科ディプロマ・ポリシー」に掲げる「学生が身につけるべき能力」の修得度を評価するために必要となる「学修成果の評価」の在り方とその評価計画が「薬学科カリキュラム・ポリシー」に記載されておらず、「学修成果の評価」が行われていないことについては早急に適切な措置を講ずることが必要である。その進捗状況に関する報告書は、改善が認められるまで毎年提出することを求める。

(3) 本評価時の状況

「学修成果の評価」については、授業を担当する専任教員全員が参加する専門分野別カリキュラム会議（年2回開催）において、個々の教員から意見を収集し、その検証から得られた評価に基づき、次年度の改善方法等を教務委員会に上申し、教務委員会が包括的にまとめたものを教授会・教員会議にフィードバックする体制で行っていた。しかしながら、2019年度まで運用していた「薬学科カリキュラム・ポリシー」には、上述の体制を含む具体的な評価計画を明示していなかった。2020年度に改定した「薬学科カリキュラム・ポリシー」でも、学修成果の評価方法の概略を示すにとどまり、「薬学科ディプロマ・ポリシー」に掲げられた資質・能力の修得が段階的に進んでいる状況を、教育課程のどの時期にどのような方法で測定するかという評価計画は示していなかった。

(4) 本評価後の改善状況

これまでに、「学生が身につけるべき能力」の修得度を評価するために必要となる「学修成果の評価」の基準となるルーブリック表を作成した（表1、資料1）。また、その評価を誰がどの時期に実施するかについて定めたアセスメント・プランを策定した。しかしながら、「Ⅰ 総合判定」のなお書きに対する改善報告についての審議結果（2024/7/31）では、評価計画の策定と実施が依然として不十分である旨を指摘された。そこで、カリキュラム・ポリシーの別紙2に「学修成果の評価」に関する項目を追加し、年に1回、ルーブリックを用いて学生と教員がそれぞれ評価し、学年進行に伴って経時的な追跡も行う旨を記載した（資料2 p4）。また、アセスメント・プランのディグリー・ポリシー評価に

も修正を加え、実施時期を毎年1回、科目レベルのディグリー・ポリシー到達度評価の実施者を学生と教員とすることで、評価計画について明確化を図った（資料2 p5）（資料3 p12～13）。

さらに、2024年度6年次生に対して、ルーブリック表に基づくディグリー・ポリシー到達度の学生自己評価と指導教員による到達度評価を行い、両者の結果を比較検証した。学生・教員のいずれの評価においても著しく低いものは存在せず、両者の評価結果も概ね一致していたことから、ディグリー・ポリシーで定めた資質・能力を学生が獲得できていることが確認できた（資料4）。

表1. DP 到達度評価のためのルーブリック表

ルーブリック	人間性・倫理観に富む教養【教養】	汎用的な知識と技能に基づく基礎的専門性【専門性1】	ヒトの健康と医薬品に関する知識と技能に基づく応用的専門性【専門性2】	臨床・研究に関する専門性と倫理観【専門性3】	情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】	時代と社会をリードする行動力【行動力】	生涯に亘る自己実現力【自己実現力】
修得できる力と、薬剤師として求められる基本的な資質・能力との関係性	② ③ ⑨ ⑩	① ② ⑥ ⑦ ⑨	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑨	① ② ⑥ ⑦ ⑨	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑨	① ② ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	① ② ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

※ 参 照							
達成 度 A	健康や疾病のみならず自然や社会に関する多様な問題に関心をもち主体的な問題解決に向けての思考力・判断力・創造力を有し、医療に従事する人に相応しい豊かな人間性や高い倫理感に裏打ちされた <u>教養を身につけている。</u>	化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の <u>基礎的な知識と技能を身につけている。</u>	指導的立場で医薬品の適正使用を推進し、医療現場で生じ得る様々な問題を発見・解決できる薬剤師としての <u>高い専門的知識と技能を身につけている。</u>	臨床・研究に携るために必要な <u>基礎的能力と倫理観を身につけている。</u>	医療、疾病、医薬品のみならず、自然や社会の幅広い地域の情報を自ら収集・分析し、 <u>正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できる。</u>	薬剤師として求められるコミュニケーション能力・グローバル化に対応した国際感覚を有し、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、 <u>時代と社会をリードする行動ができる。</u>	生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受すると共に、医療の進歩と薬学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち <u>研鑽を積むことができる。</u> さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で <u>自己研鑽の成果を共有することができる。</u>

達成度 B	健康や疾病のみならず自然や社会に関する多様な問題に関心をもち主体的な問題解決に向けての思考力・判断力・創造力を有し、医療に従事する人に相応しい豊かな人間性や高い倫理感に裏打ちされた教養を概ね身につけている。	化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の <u>基礎的な知識と技能を概ね身につけている。</u>	指導的立場で医薬品の適正使用を推進し、医療現場で生じ得る様々な問題を発見・解決できる薬剤師としての高い専門的知識と技能を概ね身につけている。	臨床・研究に携るために必要な <u>基礎的能力と倫理観を概ね身につけている。</u>	医療、疾病、医薬品のみならず、自然や社会の幅広い地域的情報を自ら収集・分析し、 <u>正しく活用できる能力を概ね有すると共に、効果的に情報発信できる。</u>	薬剤師として求められるコミュニケーション能力・グローバル化に対応した国際感覚を有し、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、 <u>時代と社会をリードする行動が概ねできる。</u>	生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受すると共に、医療の進歩と薬学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち <u>研鑽を概ね積むことができる。</u> さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で自己研鑽の <u>成果を概ね共有することができる。</u>
-------	---	---	--	--	---	--	---

達成度C	健康や疾病のみならず自然や社会に関する多様な問題に関心をもち主体的な問題解決に向けての思考力・判断力・創造力を有し、医療に従事する人に相応しい豊かな人間性や高い倫理感に裏打ちされた教養を一部身につけている。	化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の <u>基礎的な知識と技能を一部身につけている。</u>	指導的立場で医薬品の適正使用を推進し、医療現場で生じ得る様々な問題を発見・解決できる薬剤師としての高い専門的知識と技能を一部身につけている。	臨床・研究に携るために必要な <u>基礎的能力と倫理観を一部身につけている。</u>	医療、疾病、医薬品のみならず、自然や社会の幅広い地域的情報を自ら収集・分析し、 <u>正しく活用できる能力を一部有すると共に、情報発信できる。</u>	薬剤師として求められるコミュニケーション能力・グローバル化に対応した国際感覚を有し、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、 <u>時代と社会をリードする行動が一部できる。</u>	生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受すると共に、医療の進歩と薬学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち <u>研鑽を一部積むことができる。</u> さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で自己研鑽の <u>成果を一部共有することができる。</u>
------	---	---	--	--	---	--	---

達成度D	健康や疾病のみならず自然や社会に関する多様な問題に関心をもち主体的な問題解決に向けての思考力・判断力・創造力を有し、医療に従事する人に相応しい豊かな人間性や高い倫理感に裏打ちされた教養を若干身につけている。	化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の <u>基礎的な知識と技能を若干身につけている。</u>	指導的立場で医薬品の適正使用を推進し、医療現場で生じ得る様々な問題を発見・解決できる薬剤師としての高い専門的知識と技能を若干身につけている。	臨床・研究に携るために必要な <u>基礎的能力と倫理観を若干身につけている。</u>	医療、疾病、医薬品のみならず、自然や社会の幅広い地域的情報を自ら収集・分析し、 <u>正しく活用できる能力を若干有すると共に、情報発信できる。</u>	薬剤師として求められるコミュニケーション能力・グローバル化に対応した国際感覚を有し、人との共感的態度をにつけ、地球規模から地域社会に至るまで、 <u>時代と社会をリードする行動が若干できる。</u>	生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受すると共に、医療の進歩と薬学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち <u>研鑽を若干積むことができる。</u> さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で自己研鑽の <u>成果を若干共有することができる。</u>
------	---	---	--	--	---	---	---

達成度 E	健康や疾病のみならず自然や社会に関する多様な問題に関心をもち主体的な問題解決に向けての思考力・判断力・創造力を有し、医療に従事する人に相応しい豊かな人間性や高い倫理感に裏打ちされた教養を身につけていない。	化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の基礎的な知識と技能を身につけていない。	指導的立場で医薬品の適正使用を推進し、医療現場で生じ得る様々な問題を発見・解決できる薬剤師としての高い専門的知識と技能を身につけていない。	臨床・研究に携るために必要な <u>基礎的能力と倫理観を身につけていない</u> 。	医療、疾病、医薬品のみならず、自然や社会の幅広い地域的情報を自ら収集・分析し、 <u>活用できる能力に乏しく、情報発信できない</u> 。	薬剤師として求められるコミュニケーション能力・グローバル化に対応した国際感覚を有し、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、 <u>時代と社会をリードする行動ができない</u> 。	生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受すると共に、医療の進歩と薬学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち <u>研鑽を積むことができない</u> 。さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で自己研鑽の <u>成果を共有することができない</u> 。
-------	--	--	---	--	---	--	--

※薬剤師として求められる基本的な資質・能力

- ① プロフェッショナリズム
- ② 総合的に患者・生活者をみる姿勢
- ③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- ④ 科学的探究
- ⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力
- ⑥ 情報・科学技術を活かす能力
- ⑦ 薬物治療の実践的能力
- ⑧ コミュニケーション能力
- ⑨ 多職種連携能力
- ⑩ 社会における医療の役割の理解

(5) 改善状況を示す根拠となる資料等（以下に記述した資料は別添のとおり）

資料1：薬学科 DP 到達度評価ルーブリック表

資料2：令和6年度12月定例教授会議議題および議事要旨（該当箇所のみ抜粋）

資料3：薬学部3ポリシー令和6年6月改定版

資料4：2024年度卒業予定者 DP 到達度評価

検討所見

上記(2)の『なお書き』に関して、薬学部は、「学生が身につけるべき能力」の修得度を評価するために必要となる、「学修成果の評価」の基準となるルーブリック表を作成し、「カリキュラム・ポリシー」に添付された「アセスメント・プラン」の中に評価計画を明記した。2024年度は、このルーブリック表を用いた「学修成果の評価」を4年次と6年次学生に対してのみ実施したが、「アセスメント・プラン」に示された評価計画の通りに評価が行われてはいない。

以上より、本機構の指摘の趣旨に沿って、改善に向けた取り組みが進められていると判断するので、策定した「アセスメント・プラン」に従って評価を行うことを期待する。